

オンブズパーソンに 昨年度11件の苦情申立て

市はこのほど、2021年度オンブズパーソン活動状況報告書を発表しました。

オンブズパーソン制度は、市民の皆さんの権利や利益を擁護すること、市政を監視して市政の改善を図ることにより開かれた市政を推進すること、市民の皆さんの意向が反映された市政運営になるようにすることなどを目的とした制度で、だれでも自由に苦情申立てや相談などをすることができます。

昨年度は苦情申立てが11件、相談等が36件あったことで、苦情は表の通り近年最高となっています。

苦情の中身は、滞納負担金に係る差押え、下水道事業受益者負担金、給与情報の入力誤りなどの具体的なものもありますが、多くは市民に対する市側の対応に関するもので、行政執行の内容よりも、その前段階である市民との接し方についての苦情が多いようです。

年度	苦情申立て
令和3年度	11
〃 2年度	2
〃 元年度	4
平成30年度	7
〃 29年度	5

「誠意が感じられない」「不適切な発言があった」など、信頼関係を築けないことによる苦情が出ていることは極めて残念です。市の職員行動規範には、「信頼を何よりも重んじ、正直で誠実に行動します」とありますので、

今後に期待したいと思えます。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.757 2022年8月7・14日合併号

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

入院受入体制の整備・発熱外来の拡充 検査体制の強化などを要望

日本共産党議員団が市長に第9次となる緊急申入れ

2022年8月1日
 上越市長 中川幹太 様
 日本共産党上越市議会議員団
 団長 橋爪 法一
新型コロナウイルス感染拡大対策に関する申入れ
 (第9次)

<前文省略>

1. 入院体制について、コロナ患者の受け入れはもちろんのこと、通常医療に制限がかからないよう受入体制を整えるなど、市としてあらゆる手立てを尽くすこと。
2. 医療機関の発熱外来が拡充されるように、独自助成を行うこと。
3. 症状のある人が速やかに検査を受けられるようにする体制強化と、無症状者を対象にした検査実施か所数のさらなる増加を、県当局に強く求めること。
4. 定期的なPCR検査・抗原検査を行う事業所への支援をさらに強めること。
5. 病院など医療機関職員の体制確保への支援を強力に行うこと。
6. 軽症や無症状者から家族への感染を防ぐための手立て(宿泊療養施設での受け入れ態勢の確保など)を強めること。
7. 4回目のワクチン接種について、手続きに不慣れた高齢者などが身近な施設で面倒な手続きなしに安心して受けられるような手立てを取ること。

専門家によると、「これまで流行していたオミクロン株B A2系統からB A5系統に置き換わっており、B A5系統はウイルスが増殖する力がさらに強く、免疫をすりぬける免疫忌避も獲得している」と

提出にあたっては、市内の医療機関や福祉施設などでも緊迫した状態になっている実態を訴えながら、国や県とも連携して取り組むことを要望しました。

新型コロナウイルスの感染拡大は、全国的に第7波に襲われ、病床ひっ迫などの深刻な事態になっています。上越市でも、7月下旬から連日100人を大きく超える新規感染者が確認されており、市長が緊急メッセージを発出し、「体調不良時のイベントの参加自粛」「不安の際の検査受診勧奨」「こまめな換気推奨」等を訴えています。行政としても、具体的な対策強化が求められています。

この日、緊急に要望した項目は左の通りです。対応した笹川総務管理部長は、「国・県が行動制限をしていない中、市のできることは限られているが、要望の内容は市長並びに係務部に伝えて対処する」と述べました。



「しんぶん赤旗」日曜版8月7日付と14日付は合併号となります。